

月刊「建設」では2020年1月号から「実務に役立つ豆知識」の連載を開始しました。建設関係施策等の重要なキーワードを解説しています。実務に携わる会員の皆様の業務遂行や資格試験の対策などにお役立てください。

インフラツーリズム

インフラツーリズムは、普段訪れることのできないインフラ施設の内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを地域と連携して展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すものである。

近年、観光は我が国の経済を支える産業へと成長しつつある。これまで政府は、2006年に観光立国推進基本法が成立したことを受けて、2007年に観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため「観光立国推進基本計画」を定めた。2013年には観光立国推進閣僚会議において、「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」をとりまとめ、「インフラプロジェクトと連動した観光振興」の取組みを強化すること等が示された。2017年には明日の日本を支える観光ビジョン構想会議が策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」の中に「魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放」が盛り込まれた。国土交通省では、2018年にインフラツーリズム有識者懇談会を設立し、

2019年に出された提言に基づいて「インフラツーリズム拡大の手引き一試行版一」を作成するなど、インフラツーリズムを推進する取組みを進めている。

「インフラツーリズム」は全国各地で実施されている。先進的な取組みとして、埼玉県にある首都圏外郭放水路は、普段見ることの出来ない地下に広がる大きな柱が並ぶ大空間が「地下神殿」とも呼ばれており、民間事業者が企画運営を行うことで、土日祝日にも見学会を開催し、受け入れ枠を大幅に拡大している。神奈川県にある宮ヶ瀬ダムでは、定期的に行う観光放流の実施日を公表・周知することで、旅行ツアーや下流地域の学校の見学会等の企画に組み込まれ、年間10万人を超える見学者を集客している。兵庫県神戸市と淡路島を結ぶ明石海峡大橋では、「明石海峡大橋ブリッジワールド」として海上300mの主塔登頂ツアーを実施しており、参加者による主塔からの眺め等の写真がネット上で紹介され、人気を集めている。

